



平成28年度 第4回まなびあいサロン

テーマ：『福祉の利用と個別の教育支援計画の活用』
アドバイザー：聾学校 齊藤 恵子 教頭

11月17日（木）に、第4回まなびあいサロンが行われ、幼稚園、小学部、中学部、みみちゃん教室の保護者や福祉施設の職員など、9名の方が参加してくださいました。

アドバイザーの齊藤恵子教頭から、障がいのあるお子さんを育ててきた体験をとおして、手帳、受給者証、障害基礎年金について実物を提示しながら話がありました。手帳の種類やその違い、受給者証の手続きや福祉サービスのことなど、たくさんの情報を聞くことができました。

障害基礎年金は、障がいの程度とその状態により、20歳の誕生日から支給される年金です。年金事務所からの手続きの知らせは届かないので自分から申請しなければなりません。手続きは、市役所や年金事務所でできますが、年金事務所には手続きのスペシャリストがたくさんいてスムーズだったそうです。ただ、書類の作成はとても大変で、本人確認書・病歴申立書・受診状況等証明書等々・・・、記録を残しておくことの大切さを感じたとのことでした。

そこで、おすすめしたいことは、個別の教育支援計画の活用です。活用例として、個別の教育支援計画のファイルにお子さんの情報をファイリングしたり、メモをしたりして記録を保管しておく、年金申請や福祉サービスを利用するときに役立ちます。また、就職したときには、会社が必要な配慮をしてくれます。さらに、本校の個別の教育支援ファイルはA4なので資料を綴じて自宅で保管し、手続き等にはA5に縮小して持ち歩くと便利です。お子さんの最大の支援者は、保護者の皆さんであり、アンテナを高くして情報を集めることが大切だということでした。

みんなが資源！
みんなで支援！



参加者の方からは、体験談を交えながら様々な質問ができました。相談支援員の方も参加されていたので、一緒に質問に答えていただきました。みなさんメモを取りながら、有意義な情報交換ができたまなびあいサロンになりました。

✿ 参加者の感想 ✿

- ・いろんなサービスがあるということを改めて学ぶことができた。他の市町村でもやり方や考え方が違うようなので、郡山市の他に自分の市のサービスについて知っていきたいと思いました。
- ・子どもの今までの、これからの出来事など、ファイルにまとめておくことが大事だとわかりました。たくさんの福祉サービスがあるので、自分で勉強して使えるサービスは使っていくようにしたい。